

## 第7回 2019年11月12日(火)

第7回一流塾では、講師に一柳塾長と松本晃氏（ラディクルジャパン㈱代表取締役会長 CEO、元カルビー㈱代表取締役会長兼 CEO）を、懇親会の特別ゲストには、小池百合子氏（東京都知事、元衆議院議員、元環境大臣・防衛大臣）をお迎えしました。また懇親会には、一流塾特別顧問の福川伸次氏（（一財）地球産業文化研究所顧問、東洋大学総長）、一流塾顧問の渡邊五郎氏（元三井物産㈱副社長）松本晃氏にもご出席頂きました。



【講師 一柳塾長】

第1部では、『元気と知恵の経営』と題して、一柳塾長が講義を行いました。官僚を辞めてベンチャーを起ち上げた頃の修羅場体験と学びについてお話しいただき、綺麗な花を咲かせるには良い土を作らなくてはならない。良い土とは人間では目に見えない要素即ち人間力だ。先がよめない時代には「多長本動」という4つのモノの見方が役に立つと話されました。そして、日本が置かれている厳しい現状も、チャンスと見ていくこと。ベンチャー企業が大企業に勝つためには、スピード、ハングリー精神、そして失うものがないという事と、お示し下さり、他の人が真似出来ないような付加価値をつけ、成長市場を取り込むことが大切とお話し下さりました。取り組みとして相互理解を得るコミュニケーション能力が大事であると具体例を挙げて説明されました。終盤には、リーダーが共通する3つの要素として、夢とビジョン、知恵と頑張り、人間力を高めることが必要であるとお伝えいただきました。そして最後に「また会いたい」という人間にならなくてはいけないと塾生を激励されました。塾生からは、「全体最適プラットフォームの視点で社会・日本・世界を見てみます」、「綺麗な花を咲かせる為の良い土を作ること「多長本動」が大事」といった声が上がりました。



【講師 松本氏】

第2部では、『Change, or Die !』と題して、松本氏が講義を行いました。松本氏は、冒頭、「今、また新しい学びと挑戦」として、ご自身が会長を務められていたRIZAP GROUPでの改革を分かりやすくお話しいただきました。構造改革には必ず痛みが伴うこと、けじめをつけることの大切さ、実際に行った具体例と共にお話しいただきました。そして、ご自身のブレないモノの考え方をご紹介頂き、昭和からすべてが変わってしまった平成の30年を振り返りながら、変革なしには生き残れない時代になっている、しかし変革とは既得権を奪う事であるが、その抵抗勢力は強く、打破するためには率先垂範を実行する必要があると語られました。さらに、経営とは、全てのステークホルダーを喜ばせ、世の為人の為に儲けることであると述べられました。そのために必要な3要素として、VISION、PLAN、LEADERSHIPがあり、ご自身が行ってきたカルビーの変革は、まさに「成果」に繋がる「環境」、「制度」を整え、「しくみ」、「文化」を変える取り組みであったと事例を交えて分かり易く説明されました。自信を持って語られる経営哲学に、塾生は皆引き込まれ、「私がやっていること逆の部分があり考えさせられました。社員の立場で考えなければこれが今日の最大の学びです。」「厳しさと温かさのバランスをとること。生き方改革が必要。部下の時間を奪っているのは上司というところ同感しました。」といった感想が寄せられました。



【特別ゲスト 小池氏】

懇親会では、福川先生の乾杯の後、特別ゲストの小池氏から『2020とその先の東京』と題して卓話をいただきました。冒頭、塾長と中央アジア研究所を立ち上げた時のエピソードをお話しされ、東京オリンピックが終わった後の東京の話として、江戸時代から東京の150年の人口の変化や、かつて1964年の東京オリンピック時の開発の様子を見えるレガシーとし、日本を代表する都市東京として、まずは5Gの基本インフラを整備し、世界に負けないスピードにしなければいけないとお示し下さり、目標を2040年にタイムセットをすることで、2030年までに何をしたらいいかを明確にし、東京の未来を担っている皆さんからも是非提案をしてほしいと述べられました。



懇親会風景

懇親会後の塾生有志による塾長を囲む放談会では、スペシャルゲストとして官僚の方にご出席頂きました。日本の将来を見据えた課題を熱く語っていただき、塾生も問題意識を刺激され、熱い議論で盛り上がり、ゲスト・塾生の交流が夜遅くまで続きました。



放談会風景